

マレーシア 景気の回復には
時間を要する見込み
SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 塚田 雄太
 E-mail : tsukada.yuta@jri.co.jp

輸出は持ち直しも、内需は低迷

足元で輸出の増勢が加速している。GDPの実質輸出(財・サービス)との連動性が高い輸出数量指数は、2015年10~11月が前年同期比+7.5%と7~9月期(同+5.3%)から伸びが拡大した(右上図)。財別にみると、天然ゴムや繊維、金属鉱石などの「食料に適さない原材料」(前年同期比+46.7%)、皮革製品や紙製品、金属製品などの「原料別製品」(同+22.8%)、家具やカメラ、精密機器などの「その他の種々の製品」(同+16.7%)、パーム油などの「動植物性油脂」(同+15.4%)、一般機械や電気機械、自動車などの「機械類・輸送機器」(同+9.2%)などが大きく増加した。中国での景気テコ入れ策実施による資源需要の持ち直しや、先進国のクリスマス商戦向け輸出が下支えしたとみられる。

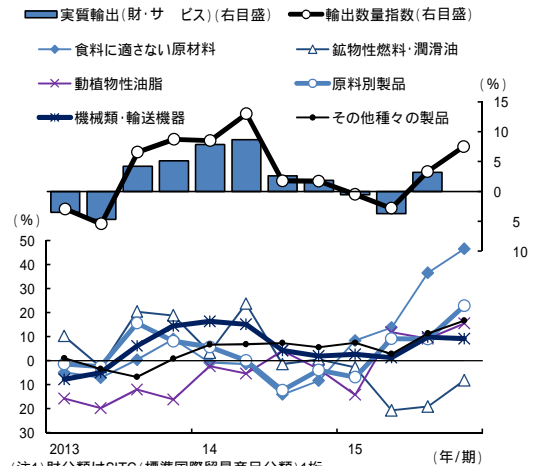
一方、内需は力強さを欠いている。消費者マインドは、雇用環境の悪化や15年4月に導入された物品・サービス税(GST)の影響から、消費に対して楽観・悲観の分かれ目である100ポイントを大きく下回った状態が続いている(右中図)。企業部門では、15年10月の建設関連の生産指数は前年同月比+5.1%と持ち直しているものの、そのペースは緩慢である(右下図)。

輸出主導の景気回復は期待薄

当面を展望すると、外需では、16年入り後、同国輸出の約1割を占める中国景気が早くも息切れ、減速懸念が再び高まっているほか、それ以外の世界景気の回復ペースも緩慢にとどまるとみられ、輸出が景気回復のけん引役となるような状況は期待しづらい。

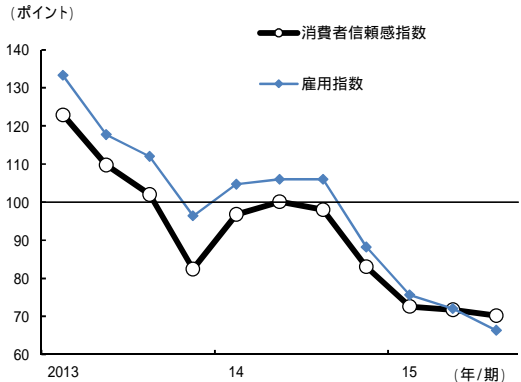
また、内需では、16年1~3月期まではGST導入による駆け込み需要の反動減の影響が続くと見込まれることに加え、景気の先行きに不透明感が漂うなか、企業は設備投資の本格化には踏み切りづらい状態が続くと思われる。以上を踏まえれば、同国景気が回復基調に転じるには、今少し時間を要するとみておくべきであろう。

<輸出数量指数と実質輸出(財・サービス)の前年同期比>



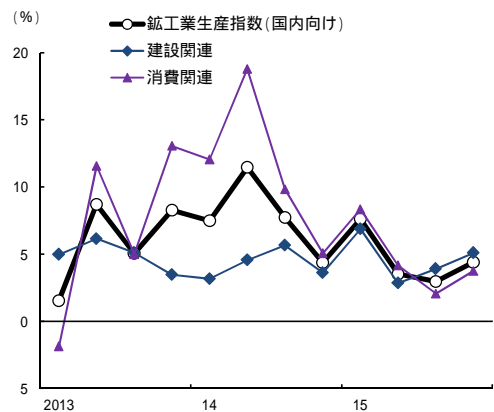
(注1) 財分類はSITC(標準国際貿易商品分類)1桁。
 (注2) 15年4Qは10~11月の値。
 (出所) マレーシア統計局、マレーシア中央銀行、CEICを基に日本総研作成

<消費者信頼感指数と雇用指数>



(注3) 100を上回る(下回る)と消費に対して楽観(悲観)、雇用状況が良好(不良)を表す。
 (出所) マレーシア経済研究所を基に日本総研作成

<鉱工業生産指数(国内向け)の前年同期比>



(注4) 15年4Qは10月の値。
 (出所) マレーシア中央銀行、CEICを基に日本総研作成